鳥取・倉吉農業高校

汗の修学旅行へ

北海道で酪農実習

17年間も続けて実施

北海道阿寒郡鶴居村幌呂に、ことしの夏も鳥取県立倉吉農業高校（新信義人校長）の生徒たち十五名が酪農実習旅行として訪れ、農家の人々とともに汗みどろになって作業をした。この実習旅行はことしで十七年目、農業専攻の高校だけに新しい修学旅行として教育界から注目されている。

鳥取県立倉吉農業高校は従来の修学旅行のほかに、農業実習に役立つような新しい企画はないかーこの発想から生れたのが北海道への実習旅行だった。

それはいまから十七年前の昭和三十一年のこと。この種の旅行は長期間でなければ意義がないとして夏休みをそれにあてることとした。

農業のなかでも将来性のある酪農を目指として計画をすすめ、その名称も〝北海道夏期酪農実習旅行〟とした。ねらいは①北海道の農業を理解する②酪農先進地の専業経営を学習する③酪農農家で生活体験をする、などの三点にしぼった。

ことしの参加者希望者は女生徒一名をふくむ十五名が七月二十二日から八月二十一日までの一カ月間、山本要教諭が引率して鶴居村へ出かけた。費用は一名二万二千円。

鶴居村では毎年生徒たちの顔こそ変っても、同じ高校の生徒がくるというので夏が近づくとくびを長くして待っているほど。村の赤ん坊たちはすっかり成人して、生徒たちと共同作業にとりくむようになっている。

生徒たちは十五軒の農家に分宿、家族の一員としての生活がはじまった。折柄の手不足に悩む農家は大喜び、また生徒たちは雄大な自然のなかで、身体をきたえるとともに実習に取り組んだ。

学校には飼育牛もいるが、こんな広い平原に、何十頭もの牛をみるのははじめてのこと。最初のうちは戸迷ったが、数日もたつと搾乳の手さばきはあざやかになった。

鶴居村では、この生徒たちの奉仕に対し、お礼の意味で、ことしは阿寒国立公園めぐりの一泊旅行に招待した。生徒たちは小躍りした。摩周湖、硫黄山、砂湯、屈斜路湖、美幌峠、阿寒湖などを回わる、長い実習期間のなかの楽しい旅だった。

帰校後、新学期には真黒に焼けした顔をほころばせて、夏の北海道での体験と思い出を家族や友人たちに語るのだった。

しかし、この十七年間も続いた実習旅行をことし限りでとりやめになるという噂が生徒間でささやかれるようになった。学校当局はそれについて何も語らないが、このような新しい校外教育は、ぜひ毎年つづけてほしいとの声が父兄の間でたかまっている。

効果をあげた

付添の同校教諭　山本　要氏の話

山本　要氏

実習のあとをふりかえると専業酪農農家の実態に直接ふれることができ、これが第一にあげられる。搾乳技術の水準を知り、実際にぶんでやってみたという経験は大きいと思う。校外教育の特徴である広い視野からの把握力が養成されたこと、あわせて集団行動、共同生活の訓練ができたことなど、大きな効果をおさめたと自負している。

関修委の運動と目標 ④

付添い旅費は別枠で

＝生徒の事前指導にもっと力を＝

高田福松

安全の保障

なんとしても修学旅行で心配するのは、期間中の生徒の安全についてであろう。

学校によっては、校医さんが付添って行ってくれるところもあるときくが、二泊三日間、医師が業務を離れることは、その厚意を奉仕してくれる医師の数少ない現実ではなかろうか。

業者にたのんで、看護婦をつけてくれるように契約することは、看護教諭でもいなければ、ぜひとも必要なことであろう。数多い生徒で、いつ、いかなる事態も起りかねないので手続は完全にすべきであって、多少の経済的支出は決してむだではない。病人の出ないことは、安心料となっても、万全を期すべきである。とくに、山のうえ千百㍍のびわ湖バレーのペコニア・ホテルでは、さらに一人の看護婦を用意していてくれたことは、心強い限りであった。

さいわいに、往路は新幹線〝ひかり〟であり、三時間たらず、復路は名古屋から二時間であるので、特別の異常者でないかぎり、手当を要する生徒は生じない。もし、列車に乗せるのに困難な生徒は、名古屋なりで付添えをつけて処理すれば処理できるものと考えられる。

きくところによると、近畿修学旅行委員会では、特別に修学旅行保険を保険会社と契約を結んでいるという。その内容を調査して各方面とも相談のうえ検討しようと思う。さらに関係地区が協力して京都・奈良などに負担金を出して委嘱の病院を作るなどは、どうであろうか。

引率旅費の別枠支給について

要保護生徒・準要保護生徒の旅費ならびに宿泊などの費用については規定により支給されている。けれども、教師の引率旅費については、一般旅費内で、処理せよとの趣旨と思われるが、また、当然であるその見解も成り立つけれど、埼玉県下の八五%の中学校が関西方面に向っている現実をみれば、約二千学級として一学級二人の引率に管理者が一人付添って四千三百人弱となる。一人平均一万三千円かかるとすれば五千五百九十万円が引率のための諸経費となる。

これが、現在でも、普通旅費を圧迫している現状であるため、どうしても修学旅行については、PTA、後援会などに依頼するか市町村費支弁を余儀なくされる。両者にその支出について考えがないときには、仕方なく、何らかの便法を講ずるところに問題がかもし出されるのである。

市町村費で旅費計上できればよいのであるが、県費支弁の教職員であるので、いちばんよいのは県旅費のなかに特別に枠外として計上されることである。これは目的地が、関西、東北などいずれの地域になろうとも、必要である。東京、神奈川、千葉などでも一万円ないし六千円ぐらい出されているようである。

事前事後の指導

見学地からして当然、歴史・地理が主なる科目と思うが、石山寺などは、国語の領域であり、びわ湖バレーの、谷間のミズバショウやシャクナゲは高山植物として理科として取扱えよう。鈴鹿サーキットのエンジン教室などは、技術科として事前指導の対象となる。

われわれとして、授業時間をつぶさないで集団的に指導する折が比較的とりにくいのは、難点といえよう。

導として、文集を作ったり、写真を配布したり、教師側から出した観察カードなど、集計したり、子どもの出費状況を翌年度の参加資料として残したりすることも、まとめるべきであろう。

以上、主として大部分の学校で実施している関西旅行につき実例をあげ、六項目にわけて説明してきたが、いずれの目的地を選定しようと、根本的には、同じようなものに結論づけられるであろう。

いやしくも教師の物見遊山的な気分がのぞくことはいましめるべきである。生徒が自分の目で見る、足で歩くことに、今後の夢が大きくひろがる。学校をはなれて、学習することは、数少ない機会であるため、価値あるものにすべきであろう。（終）＝関東地区中学校修学旅行委員会連営委員長・埼玉県中学校修学旅行委員長・幸手中学校長）

49年は輸送困難

新幹線利用ふえる

関修委

関東地区中学校修学旅行委員会（高橋俊麿会長）の本年度第四回運営委員会は十月二十三日午前十時から東京新宿区の都教育会館で開催。高橋俊麿会長ほか高田福松運営委員長、高橋武司（千葉）介川容介（茨城）荒幡義輔（埼玉）椎原大三郎（群馬）梅沢章（同）の各運営委員、全修協から白滝事務局長、岩崎研究部長が出席した。

昭和四十九年度の新幹線利用の希望校について集計した結果、四十八年度にくらべると春季が四千九百三十九名の増、秋季の栃木県減少分を差引くと総計では二千七百七十三名の増加となり、午前八時十五分東京発の新幹線「ひかり号」一本では所定の期間内には輸送ができないことが判った。そのため関修委では「ひかり号」をもう一本増発するよう国鉄に要請することになった。なお四十八年度は春秋合わせて五百六校十万二千七百九十二名である。議題②＝意見の交換が行なわれる。

奈良・大和路を語る会

11月30日静岡で

修学旅行の受入れ対策事業の一つとして行なわれる「奈良・大和路を語る会」は十一月三十日午前十時から静岡市東草深二丁一四中央公民館で開催される。奈良県と奈良市主催、静岡県、同教委、静岡市、同教委、全修協などの後援で、スライドによる〝観仏三昧〟の上映、松本楢重氏の講演のほか同地方における修学旅行について

関修委設立十年記念研究集会は、十一月二十二日、柏中学校で開催されるが、その予算案について検討を加えたあと、十月二十日、二十一日愛知県下で開かれた関東・東海・近畿地区修学旅行委員連絡協議会の経過について報告があり、国鉄など輸送力の増強を推進することおよび近畿地区で実施している修学旅行の保険制度を検討することなどを決めた。

また、十二月一日から行なわれる修学旅行現地研修会の日程を次のように決定した。

▽期日は十一月一日から同三日まで▽会費二万二千円▽申込みは十一月十日まで各県修旅委へ。

第一日＝東京発（九・五〇）－（新幹線こだま）－米原－彦根城－石山寺－大津（泊）第二日＝大津－醍醐三宝院－方福寺－奈良歴史教室－飛鳥めぐり－吉野（泊）第三日＝吉野めぐり－壷坂寺－大和八木－京都－（ひかり）－東京着（一七・三五）

循環方式に割引を

久保田（近畿）委員長ら国鉄陳情

近畿修学旅行委員会の久保田八郎委員長（全日本中学校長会副会長・三瓶区修学旅行委員連絡協議会長・大阪市立住道中学校長）と太田正章副委員長（大阪市立成南中学校長）の両氏は十月十八日午後一時、全修協の白滝事務局らとともに国鉄本社旅客局に千野営業課長補佐をたずね、来年度の近畿から信州方面への修学旅行輸送について陳情を行なった。

信州行きコースは約一万八千名に達するが、往復いずれか一回だけ新幹線を利用する場合でも五割引きの特典を与えてほしいというもの。このコースは循環方式で、生徒個人については新幹線片道一回の乗車だが、反対方面からくる生徒をふくめると全体的にみて往復乗車になるというのが陳情の理由。これに対して千野課長補佐は、この種の特例を国鉄が認めるかどうか、内部でよく検討したいと答えた。

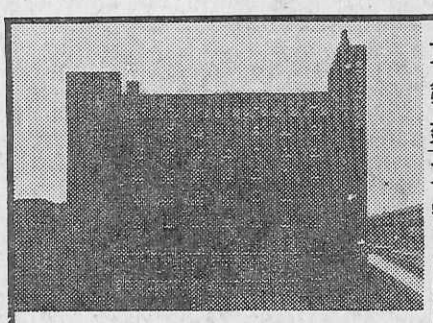
お知らせ

今般当社の電話番号は次の通り変更になりましたのでお知らせいたします。

▼フェリー部＝(214)五七一四▼総務・海務・経理部＝(214)五七一一(211)一六三四。

なお役員室、営業部および代表番号(214)四九一一は従前通りです。

東京都千代田区丸の内二－三－一　近海郵船株式会社



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

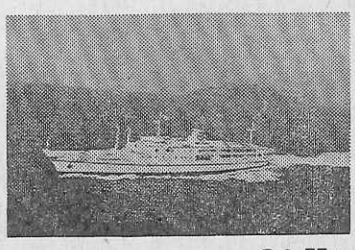
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館

若い心を大きく広げる

豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）

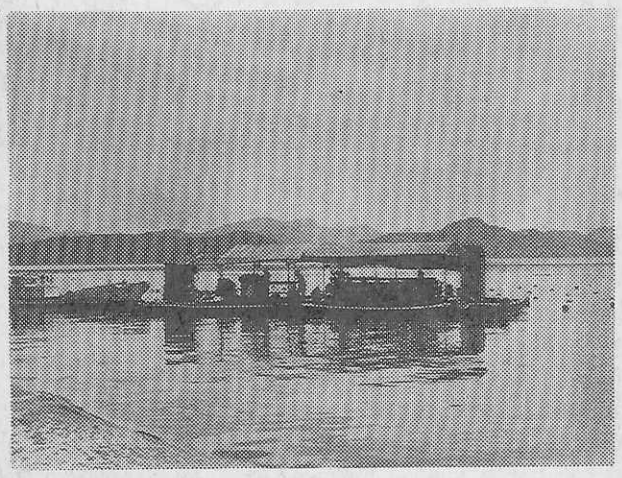


見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。
●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講議用TVシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店　東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273－8911

研修旅行 参加作品

推せん（カラー）「霧の山頂」嶋根久（茨城）



推せん（白黒）「真珠養殖」三橋保子（山梨）

流刑と法難の地へ

佐渡磐梯蔵王コース　村野充郎

このコース、まったく未知のまま参加したが、海と山と温泉と史蹟の旅で、決してわるくなかった満員鈴なりの船が両津港に着いたところからはじまる。「佐渡は寝たかよ、灯が見えぬ」とおけさ民謡に歌われたこの島をバスガイドは「古来から政治犯の流刑の島である」と説明した。土地の人からは「順徳さん」の愛称で呼ばれる順徳上皇をはじめ、日蓮のような宗教家、世阿弥のような芸能家、その他公卿、武士、町人におよぶ永年にわたっておびただしい数である。

なかでも江戸時代、金坑の水替人足として江戸から送られてきた人夫の平均寿命四年五か月と聞いて胸を打った。金山として栄えた時代の産出された金も江戸に送られ、貨幣に鋳造されるだけで地元の施設拡充にはなんら使われていない。哀話だけが残って見るべき文化遺産はないのを見てもわかる。

明治になっての三菱鉱山の工場の残骸も相川海岸に痛々しさを見せている。こうした島を観光地として生れかわらせるためには、今後一層の資本投下しないと魅力ある島にならぬのではないか。バスの運転手が運転しながら「おけさ」を歌ってくれたり、相川の演芸場で「おけさ踊り」を無料で見せてくれたり、土地の人々のなみなみならぬサービスぶりも痛いほどわかる。尖閣湾、金北山の風光もそれなりに美しい。わたしは博物館に流人の遺品などもっと陳列し、流刑地佐渡を強調したらいいかと思う。

それは悲しい史実かもしれないが、水替人足の使用した桶など涙がにじんでいる。これら虫けらのように扱われて死んでいった人たちの墓はどうなっているのだろう。世阿弥の残したと思われる各村の能楽堂などみたかった。

日蓮上人の佐渡法難の話は有名だが、バスガイドは一と言も触れなかった。立浪会の「おけさ踊り」は洗練されて立派なものだが、あれは素人（しろうと）には踊れないものだろうか。

会津若松の鶴ケ城―せまい道路に閉口する。工費一億数千万円をかけて新築した鶴ケ城は、観光のポイントの一つである。規模は大きくないが、会津の落城哀話とともに語りかけてくれる。＝つづく＝（静岡県藤枝市志太一九七）

近江路散歩 2

甲賀忍者のふるさと

渡辺守順

鈴鹿の山なみが南へなだらかにのびてやがてなくなるあたりに、鹿深（甲賀）の里がある。東は東海道の関所で名高い鈴鹿峠から、「坂は照る照る鈴鹿は曇る　あいの土山雨が降る」の馬子唄につられて、土山、水口草津へ旅をした旧東海道には美しい松があり、田村神社、垂水頓宮跡がある。頓宮跡は京のお姫さまが斎宮として伊勢神宮へ奉仕されるための旅の宿所跡である。土山の茶畑のかおりにつつまれた垂水の旧跡は、もはや訪れる人もない。

しかし、土山には常明寺があり、森鴎外の「小倉日記」にでてくる。この寺には長屋王親筆の「大般若経」があり、和銅五年（七一二）の奥書があって国宝である。

水口は広重の五十三次の絵にかんぴょうをほすのが描かれている。戦後紹介されて遠来の観光客が多い。

国鉄草津線の貴生川から信楽へ入ると、このあたりは気候も地形もまったく奈良とよくにていて、聖武天皇が天平十四年（七四二）に紫香楽宮を建設されようとされたみ心が現代にもよく理解でき、セカンド・ハウスはぜひここと求めたい心境になる。宮跡には金堂跡、講堂跡僧坊跡などの礎石が残っていて古代人の面影をしのばせる。かさこそと散った秋の落葉をふんでしずかにたたずむと遠い世がなつかしくよみがえってくる。

現代の信楽は焼物の町である。

陶都信楽は水上勉の「しがらき物語」をもちだすまでもなく有名である。町のあちこちに見られる窯元、タヌキや植木鉢のならぶ信楽はたのしい観光の町でもある。信楽の奥は多羅尾で代官邸跡がある。

国鉄草津線の石部から東寺・西寺をおとずれると国宝の寺がひっそりとある。観光ずれのしていない古文化財の寺に詣でると、良弁僧正の開いた阿星山をめぐる甲賀文化がじつに気高く思われる。

金勝山にのこる狛坂磨崖仏はもに近江だけでなく全国的にも貴重な秀作であり、金勝アルプス一帯の景観はハイキング・コースとしても多くの人がのぼる。廃小菩提寺の石仏群。国宝の善水寺の数多い仏像。花園の不動磨崖仏の雄姿。どこを歩いても、文化財にぶつかるのが甲賀の里である。忍者の山といわれる飯道山には忍者習練の行場が残っている。緑と空気の美しい古文化をいだく甲賀の山々はじつに静寂であり、平和である。＝つづく＝（能登川高校教諭。写真は甲賀忍者屋敷・筆者ううす）

優雅な味をもつ社殿の油日神社は、五年目ごとの油日まつりがすばらしい。長持奴三人、狭箱奴四人、毛槍奴二人、その他六十四人の大行列は豪華な風俗絵巻である。

油田神社のすぐ近くにある櫟野寺も古文化財の宝庫で、境内の櫟の古木もみごとだが、収蔵庫をかねた本堂の仏殿に並ぶ十八躯の仏像を拝見すると藤原期の重要文化財の群像に魅せられる。

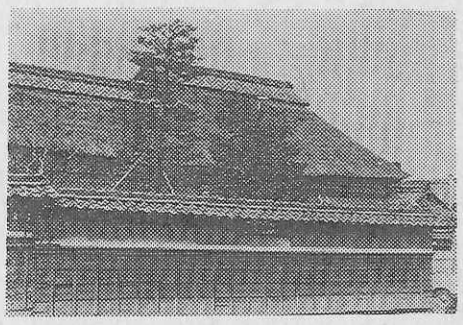
忍者屋敷は甲南町竜法師にある。ただ一軒しかないが、甲賀五十三家のひとり望月本実の住いで、元禄年間に建てたものだという。じつにからくりの多い建築様式である。一見の価値がある。戦後紹介されて遠来の観光客が多い。

国鉄草津線の貴生川から信楽へ入ると、このあたりは気候も地形もまったく奈良とよくにていて、聖武天皇が天平十四年（七四二）に紫香楽宮を建設されようとされたみ心が現代にもよく理解でき、セカンド・ハウスはぜひここと求めたい心境になる。宮跡には金堂跡、講堂跡僧坊跡などの礎石が残っていて古代人の面影をしのばせる。かさこそと散った秋の落葉をふんでしずかにたたずむと遠い世がなつかしくよみがえってくる。

現代の信楽は焼物の町である。

陶都信楽は水上勉の「しがらき物語」をもちだすまでもなく有名である。町のあちこちに見られる窯元、タヌキや植木鉢のならぶ信楽はたのしい観光の町でもある。信楽の奥は多羅尾で代官邸跡がある。

国鉄草津線の石部から東寺・西寺をおとずれると国宝の寺がひっそりとある。観光ずれのしていない古文化財の寺に詣でる



この美しい古文化をいだく甲賀の山々はじつに静寂であり、平和である。＝つづく＝（能登川高校教諭。写真は甲賀忍者屋敷・筆者ううす）

郷土の玩具

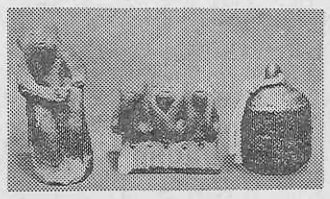
民間信仰に一と役

陶鈴と瓦猿

近畿

○…伊勢松阪の万古陶鈴は安政三年から今日まで続いて製作されている。郷土の生んだ逸材本居宣長が非常に鈴を愛したことがはじまりといわれ、音色の豊かさ、形の面白さが評判となっている。数十種類の古鈴（写真右）のほか見ざる、聞かざる、言わざるの三猿（写真中央）、伊勢まつりの旅姿を模した道中鈴、腐除けの鬼面鈴など変わったものも多い。

○…和歌山に元和年代から伝わっているものに瓦猿（写真左）がある。昔、瓦職人が内職に作ったのがはじまりと伝えられている。和歌山市内の栗林八幡宮境内にある日吉神社は、建久九年、後鳥羽上皇が熊野から還幸される途中供奉した老翁が霊夢によってこの地にとどまり、里人にすすめて社殿の改築をさせ、十一月の申の日に還宮の式をあげたが、このとき瓦猿を境内で作り奉納したのが発祥。今では安産、子授けのまじないとして庶民の信仰をあつめている。顔だけが彩色してあり郷土玩具としては優秀である。（資料提供・中央研修部）



九州の旅

井上西三

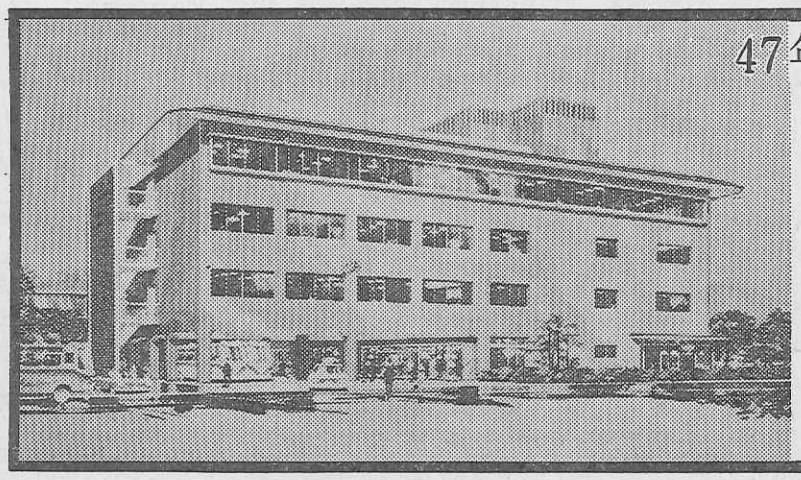
東西の山を連ねて一ぎ（約）の水域（みずき）は天智天皇三（六六四）年の築造にして新羅国（しらぎこく）侵攻防御の備えなり
天満宮に詣でては恩賜の御衣を拝しつつ筑紫の人となりにける道真公の誠裏をしのびてそぞろ去り難し
観世音寺も近くして礎石を遍す都府楼址大宰府の偉容堂々たり
二〇〇〇年まえ奴（な）の国は博多にありて異国まで遠く其の名を知られたり
延々長さ二〇ぎ（メートル）おもかげのこす石塁は鎌倉武士の勇戦を伝えて余す所なし
三保・橋立と相並ぶ虹の松原は紺碧の海と映じて白砂青松の美を極む
断崖屹立幾百丈名護屋城址は玄海の灘に面して太閤の雄志さながら平島を睥睨（へいげい）すべき地に聳ゆ
唐津に呼子・伊万里市や松浦を経て平戸口渡る彼方が平戸島
商館跡は井戸に塀倉庫の壁をとどめつつ出島に移る三〇年のオランダ発展の名残りなり
幸橋のたもとには英商館跡の碑も建てり
○
平戸を出でて鹿子前（かしまえ）へ九十九島の島めぐり一時間半の船の旅佐世保港（みなと）を過ぎ行きて早岐の瀬戸を右左進めば長さ三一六ぎ西海橋は海面上四二ぎの高さにて下の流れは伊の浦瀬戸三急潮の一つなり鎖国以来の江戸時代本邦唯一の外来港唐人屋敷・出島より孔子廟やらグラバー邸（つづく）
＝三島市南田町九―二

あるくみるきく

ささやかな冊子の名前です。書店にも出さず、これといった広告もしてきませんでした。でも，熱心な読者に支えられて，もう5年も続いて発行しています。旅をする人、土地に住む人の目を通して、その土地のあるべき姿を正確にみつめていきたい――小さな冊子にそんな大きな夢を託しています。
●年間講読料 700円(〒共)近畿日本ツーリストの各営業所が、直接当研究所宛に現金または切手でお申込み下さい。
●見本をお送りします。

日本観光文化研究所
東京都千代田区神田松永町11－2　近畿日本ツーリスト内　TEL (03)255-7111(内)274

47年3月1日オープン　空も澄む近江路の旅



〈収容〉800名様
〈食堂〉550名席
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉諸施設完備

《予約受付中》

修学旅行の専用ホテル
大津市におの浜3丁目1－4
びわ湖ツーリスト・ホテル
電話　大津(0775)24－2321(代表)
大津(0775)23－0408(直通)